

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)愛同工業株式会社 常滑工場	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県常滑市宇中大流1番1の一部	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,600 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2019年1月18日
敷地面積	6,522 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社GUIS横須賀
建築面積	1,773 m <sup>2</sup>	確認日	2019年1月18日
延床面積	3,349 m <sup>2</sup>	確認者	宮島 正



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 0.6** ★★☆☆☆☆

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算  
①参照値 100%  
②建築物の取組み 87%  
③上記+②以外の 87%  
④上記+ 87%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.7

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.3

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.9

### 3 重点項目

#### ①地球温暖化への配慮

3.5

#### ③敷地内の緑化

1.0

外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積) 0.0 %

建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積) 0.0 %

#### ②資源の有効活用

2.8

#### ④地域材の活用

1.0

<外装材に使用した地域性のある材料> なし

<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材> なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮  
②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減  
③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	実施設計段階		建物全体・共用部						全体
	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部		共用部		宿泊部分		
評価点			評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									2.3
Q1 室内環境									
1 音環境									
1.1 室内騒音レベル									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									
2.1 室温制御									
1 室温									
2 外皮性能									
3 ゾーン別制御性									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 昼光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境									
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4.3 運用管理									
1 CO <sub>2</sub> の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能					0.43				3.1
1 機能性									
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画	独自								
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観 (天井高)									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
2 耐用性・信頼性					2.7	0.52			2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.48			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数					3.0	0.33			
1 躯体材料の耐用年数	②				3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②				3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	②				3.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	②				3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	②				3.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔	②				3.0	0.23			
2.4 信頼性					1.8	0.19			
1 空調・換気設備					3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備					1.0	0.20			
3 電気設備					1.0	0.20			
4 機械・配管支持方法					3.0	0.20			
5 通信・情報設備					1.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>				3.4	0.48			-	3.4
<b>3.1 空間のゆとり</b>				4.6	0.31			-	
1 階高のゆとり			階高1F4.92m 2F4.65m	5.0	0.60			-	
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.12	4.0	0.40			-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	0.31			-	
<b>3.3 設備の更新性</b>		②		3.0	0.38			-	
1 空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			-	
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			-	
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			-	
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	0.57			-	1.7
<b>1 生物環境の保全と創出</b>		独自③		1.0	0.30			-	1.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		独自④		2.0	0.40			-	2.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				2.0	0.30			-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		2.0	0.50			-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50			-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>								-	3.0
<b>LR1 エネルギー</b>				-	0.40			-	3.3
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>								-	-
<b>2 自然エネルギー利用</b>				3.0	0.28			-	3.0
<b>3 設備システムの高効率化</b>			BEI値0.72	3.8	0.43			-	3.8
<b>4 効率的運用</b>				3.0	0.29			-	3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00			-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50			-	
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			-	
集合住宅の評価				-	-			-	
4.1 モニタリング				-	-			-	
4.2 運用管理体制				-	-			-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				-	0.30			-	2.8
<b>1 水資源保護</b>				3.0	0.15			-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40			-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				2.4	0.63			-	2.4
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-	1.0	0.20			-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自		2.0	0.05			-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	0.24			-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				3.6	0.22			-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32			-	
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			-	
1 消火剤				-	-			-	
2 発泡剤(断熱材等)			発泡剤を用いた断熱材不使用	5.0	0.50			-	
3 冷媒				3.0	0.50			-	
<b>LR3 敷地外環境</b>				-	0.39			-	2.9
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率80%	3.5	0.33			-	3.5
<b>2 地域環境への配慮</b>				2.4	0.33			-	2.4
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25			-	
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25			-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			-	
3 交通負荷抑制		独自	十分な広さの車路・駐車場を確保	4.0	0.25			-	
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25			-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				3.0	0.33			-	3.0
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				3.0	0.40			-	
1 騒音		独自		3.0	1.00			-	
2 振動		独自		-	-			-	
3 悪臭				-	-			-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				3.0	0.40			-	
1 風害の抑制				3.0	0.70			-	
2 砂塵の抑制				-	-			-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				3.0	0.20			-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			-	

# 重点項目スコアシート

(仮称) 愛宕工業株式会社 常滑工場新築工事

実施設計段階

■ 使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■ 評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

### ■ 重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	工場内の作業スペースもすべて空調を行うことで、快適に作業できる環境づくりをしている
Q1 室内環境	評価対象外とする
Q2 サービス性能	階高・天井高に余裕をもって設計されているため、使用者に圧迫感を与えない。
Q3 室外環境(敷地内)	全ての方位に窓を設置し、影となる場所をつくらないことで防犯に寄与している。
LR1 エネルギー	一次エネルギーの消費抑制に優れている。
LR2 資源・マテリアル	断熱材として、グラスウール(発泡剤不使用)を使用し、オゾン層破壊防止に努めている。
LR3 敷地外環境	駐車場に十分なスペースを確保している。
その他	エネルギーの消費を抑えることで、環境に優しい建築物となっている。